

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
567	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Relationship of military deployment recency, frequency, duration, and combat exposure to alcohol use in the Air Force. アメリカ空軍における最近の軍隊の配置、頻度、期間と飲酒暴露との関連についての研究	
執筆者	
Spera C, Thomas RK, Barlas F, Szoc R, Cambridge MH.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol Drugs. 2011; 72: 5-14	
キーワード	
アメリカ空軍、配置、飲酒暴露	
<b>要 旨</b>	
<b>目的：</b> 頻度が増え、より長期となる今日の新たな軍隊の配置環境に伴い、飲酒を含めた問題行動に対する軍隊配置の影響が、注目を集めてきている。本研究では、軍隊の配置状況と飲酒との関連について、検討を行った。	
<b>方法：</b> Air Force Community Assessment survey の一部として、匿名の Web 上の空軍隊員調査から、データを集めた。世界中の 80 基地に従事している空軍隊員 56,137 人の層別無作為化サンプルに対して調査を行った。78%が男性、22%が女性であった。飲酒障害は飲酒問題の頻度から測定した。最近の配置の様々な状況および特徴について一連の質問を行い、配置歴の情報を収集した。ロジスティック回帰分析を用いて、様々な配置状況の飲酒問題に対する影響を分析した。	
<b>結果：</b> 飲酒問題に関連する人口統計的変数を調整後も、高頻度の配置および 2001 年 9 月 11 日からのより長期にわたる累積配置期間は、飲酒問題の増加と関連していた。配置頻度が 1 回増加するごとに、空軍隊員の飲酒問題に対するオッズ比は 14%増加し、配置期間が 1 年増加するごとに、オッズ比は 23%増加した。	
<b>結論：</b> 本研究より配置状況と飲酒問題の有意な関連が示唆される。しかし、複数回配置されている大部分の隊員は早期の回復を維持していた。早期回復をもたらす保護的な要因について、将来研究が必要である。	